

България

ブルガリア・抵抗詩

Тео Милев

ゲオ・ミレーフ

Септември

九月（一九二五年） その二

(1925r.)

夜が丘のようにひろがり
かすかに光りをはなち始めた
花のように開いた光りが
ついに一つの太陽となった！
まどろみは
銃声に
ゆり起こされた。
遠い山脈の

曲線を描く裾野から
鉛色にはぶる地平線から
銃弾が
あわれっぽい死の叫びをあげて
ぶってきた。
キャノンの
象のあごが
わめき散らすのだ……
人びとは恐怖にみまわれる。
日輪も硝煙のなかでとんぼのように廻るだけ
3
人民の声
それは神の声
千の頸で
刺された
人民は
動きを止めて
倒れていった
乞食よりも一層貧しい人びとが
顔と神経を
奪われたその人びとが
いま立ち上った。
この恐怖と闇のなか
かれらの生活のどん底から

かれらは血で記す
——自由について——

第一章・九月——

——人民の声——

——神の言葉——

神よ
私たちに与え下さい 力を
生活が育てたこの手の聖なる任務のために、
私たちに注いで下さい 心に偉大な勇気を
私たちは求めているのです この動乱のなか
で。
あなたは人間が奴隷であることを認めてはい
ないから。

私たちは誓います 自分の墓の前で
新しく生きかえることを
地上の自由なる全ての者は
——そうです 強い意志をもって
死と向き合っているのです。
はるか彼方には……
カンナの花咲く楽園が
真実の国が
私たちに

約束された幸福な国があります——
春は永遠の生活の夢です……

私たちはそれを信じます、知っています、そ
れを求めます！

神よ我らとともに！

4
九月！九月！
血の月！
蜂起の月
叛乱の月！
ムグリッツがその第一だ
スタラザゴラ
ノヴァザゴラ
チルバン
ローム
フェルデイナンド
ベルコヴァツァ
サラムビー
メドコツニツ

(アンドレイ神父もいっしょだ)

——村も町も

西も東も

矢代和夫 訳